

# 土蔵に眠るお札

今回取り上げるのは、厚田区の土門家の土蔵で発見されたお札です。お札とは、神社やお寺で発行している守り札のことで、伊勢神宮の「大祓大麻」が始まりと考えられています。「家内安全」「商売繁盛」など、さまざまな願いが込められ、家を守るものとして日本の多くの家庭で祀られてきました。

土門家所有のお札は木札7点、紙札6点が蔵の中に保管されていた木箱から見つかりました。表には由来する寺社名や祈願内容、お札を受けた人物名が、裏には全体のうち2つのお札に日付が記載されています。

お札には「鯉場海産満足」「海上安全、大漁円満」と記載された漁業に関わるものが半数以上を占めており、ニシンなどの漁場として栄えた厚田において、海上安全や大漁の祈願は欠かすことのできないものであったと考えられます。

また年代も「明治十四年二月十六日」「明治十四年二月廿八日」とあり、明治14（1881）年といえば、厚田の人口が出稼ぎの漁師を含め1万2千人を超え、漁場としても非常に栄えていた時期です。お札の中には本州の有名な寺社に由来すると考えられるものもあり、入手には強い思いがあったことと考えられます。

これらのお札は、どのような経緯で厚田に来たのかははっきりと分かっているとはいえません。しかし、

現在直接漁業に関わっていない家庭にも、お札が残されています。こうして現在まで残ってきたということから、当時の厚田とニシン漁に深い関わりがあったことがあらためて分かる貴重な資料です。  
(坂本恵衣)

徳山大神宮の木札



天照皇大神宮の紙札



梵字の木札



石狩市学芸員  
坂本恵衣 Kei Sakamoto

専門は文化人類学。地域信仰について調べるとともに、石狩の人々の生活の中で宗教がどのように考えられていたのか、歴史の変遷などを研究する。

圃文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ (<http://www.i-eris.tv/>) でもご覧いただけます。